

図書室 おはなし会について

【概要】1990年5月～（34年目）

当時の館長の依頼で市内団体会員がおはなし会を行う職員として入る。その職員はカウンター業務も担当することになり、それ以降、カウンター職員が会を担当する形となる。

【特色】

- ▼子どもと本を結びつける、本や語りを通して本の楽しさを知ってもらう事を目的としている
- ▼34年継続している（毎週木曜3：45～）
今年度は、7月から、土日（10:30～）を月2回に増やし、木曜日は月2～3回開催。
9月から、第2火曜日1回（0～1歳対象 10:30～、2～3歳 11:00～）第3木曜日1回（小学校低学年まで対象3:45～）土日不定期月2回（10:30～）
- ▼カウンター業務の会計年度任用職員4人が担当（当日は2人）
- ▼担当者のおはなし会担当歴が長い（5年～30年）
- ▼担当職員2人が、中央図書館のおはなし会に長年協力している会のメンバー
（毎月の定例会、中央図書館のおはなし会や学校への協力、会員同士の情報交換や読み方の練習などの研鑽を長期にわたり継続している団体）
- ▼カウンター職員が担当することで、図書室への利用促進、関連書籍の紹介を参加者にできる。参加者への安心感や図書室への親しみ、家族での図書室の利用が増える等の相乗効果
- ▼職員が担当なので細かい打合せ、相談がし易い、要望にも柔軟に対応できる
- ▼1か月分のプログラムを全体のバランスをみて組み立て、事前に公表している
- ▼毎月プログラムの中で、「おはなし」ストーリーテリングを行っている
（ストーリーテリングとは、本を見ないで覚えたお話を語ること。子どもの聞く力、想像力にはたらきかけるもの。担当者の経験が必要となる）
- ▼手遊び、工作、折り紙等はコミュニケーションツールの1つであるとの思いから、プログラムに導入
- ▼演出のあるおはなし会（音楽、演芸などを入れる事）は絵本よりも、その演出や演者が心に残ることが多いので、時々のお楽しみとしたいと考えている（今までは年1回のとくべつおはなし会）
- ▼参加者は7～8割がリピーター

【参加者の声】（令和4年度とくべつおはなし会アンケートより）

- ▼子どもはおはなしもですが、工作、折り紙もいつもを楽しみにしています
- ▼知らない本を知れるので、親も楽しんでます
- ▼子どもも毎週楽しみにしています
- ▼工作もやらせていただけるので、親子ともどもとても楽しいです。また参加したい

【公民館図書室の特性を活かし（人と人を結ぶ）】

- ▼現在、市民劇場（映画会）の「みんなでシネマ」は図書室があることで利用できているサービス
- ▼講座開催時の資料提供（けしごおはんこ等講座開催時、市内の関連蔵書を取り寄せ展示）
- ▼公民館関連の図書ブースを設け、公民館の取り組み等を伝える（おはなし会で使用した本等も展示）